

# 若者 世界へ防災提言

## 被災3県生徒ら発表

### 東京 国際会議を呼び掛け

世界の防災に対する提言を発表する本県など被災3県の高校生たち。東京都港区



【東京本社】被災3県の高校生らが参加した「TOMODACHIヒュンントウモローグローバル・リーダーシップ・アカデミー2014」(教育支援グローバル基金主催)は9日まで都内で開かれた。同日は本県などの生徒が東日本大震災と世界の自然災害を検証し、若者による防災世界会議の開催などを提言した。

米国政府などが主導する官民パートナーシップ・TOMODACHI HIプログラムで米国を学んだ上で、班ごとの研修に参加した。本県の高中生16人を含む72人が2泊3日に参加。カート・トン駐日米首席公使は「ここにいる皆さんがこれからのリーダーだ」とあいさつし、釜石高1年の浜登美海さんらが震災体験や将来についてスピー

チした。生徒たちはフィリピン台風など世界の災害を学んだ上で、班ごと



「震災はつらい出来事だったが、私を確実に強くしてくれた」とスピーチする浜登美海さん

3年前の東日本大震災は、私の人生の中で最もつらい出来事です。自宅にいた母と妹と祖父母が津波に流され、亡くなりました。思い出がたくさん詰まった家も大事な物も全て失いました。父から家族の死を知らされたあの日、私は自分の涙を流したと思います。そばにいてくれたことを当たり前だと思ってお母さんに「ありがとう」

### 「当たり前」を守りたい

＝浜登さん(釜石高)発表要旨＝

と言えなかった。変な意地を張って、家族に感謝できなかつた幼すぎた自分に腹が立ちました。もし自分が家にいたら幼い妹の恐怖をぬぐえたかもしれない。じいちゃんの手を引いて一緒に走ることだってできた。お母さん一人に与えた不安を少しでも背負うことだってできた。後悔ばかりが募りました。当時、通っていた中学校は支援物資であふれかえっていました。日本中に自分たちのことを思ってくれている人がいると知りました。そして父はいつもこう言っていました。「今まで応援してくれた人たちに必ず恩返しをしなくてはならない」震災を経験して人の温かさに触れ、当たり前が存在を大事にしようと思ふ自分に生まれ変わったことができました。とてもつらい出来事でしたが、震災は私を確実に強くしてくれました。昨夏、TOMODACHI HIプログラムで米国に行き、東北のためにアクションを起こしている仲間と出会い刺激を受けました。そして自分も地元に必要な人になりたいと思いはじめようになりました。消極的な私がリーダーになって周りを引っ張っていくようになりたいと思います。将来は、世界中の人が安心して暮らせるようなサポートできる団体を立ち上げたいです。これから臆することなくどんどん新しいことにチャレンジしていきます。

に防災に向けた提言を「(気)く、逃げる」が最高評価を受けた。発表。宮高3年遊佐 戻らない、高く、声を震わす。遊佐さんは「自分は復興に向けて何がでなりたい」と笑顔を見せた。